

わ

が

街

わ

が

故

郷

中西金属工業株式会社と寝屋川市

大阪府の北東部に位置し、大阪と京都を結ぶ京阪電気鉄道の沿線都市で、戦後急速に発展した市民数約25万人の特例都市。寝屋川市は端的に言えばそのような位置づけにあたる。



寝屋川市の玄関 京阪電鉄寝屋川市駅

市内にはその名の由来である一級河川「寝屋川」が流れている。この川は一時期高度経済成長のあおりと地域住民の急激な増加により荒廃したが、地元環境保護団体の努力により水質や環境は徐々に往時の姿を取り戻しつつある。冬場には都鳥が群れ飛ぶ姿、春には川沿いの土手に桜並木などが見られ、大阪の近郊にありながら豊かな自然と住民が共存する地域でもある。

中西金属工業株式会社大阪工場の紹介

寝屋川市は昭和40年代に急速に拓けた街で、現在でも住民の多くは大阪市内に勤務するサラリーマンが多く、大阪のベッドタウンとして発

展してきた。その寝屋川市に中西金属工業株式会社大阪工場は昭和36年に新設された。当工場は敷地面積70,809㎡で、従業員数は約240名。中西金属工業株式会社における位置づけとしては、多品種少量生産の金属製ベアリング保持器製造の拠点工場である。

当工場では、もっぱら特注品を専門に製造しており、新幹線用や大型建設機械向けなどに用いる、厳しい精度が求められるテーパローラーベアリング用保持器は当工場の主力製品である。



中西金属工業株式会社 大阪工場

当工場で製造するベアリング保持器はおよそ22品種であるが、そのバリエーションは15,000以上にものぼる。納入先ごとに仕様が微妙に異なり、また製造工程ごとに金型が必要なため、その保管数も膨大な数に上る。製品の品質管理とともに、保存金型の精度維持や管理にも細心の注意が求められる工場でもある。また多品種

少量生産に対応する現場スタッフは熟練者が多いのも当工場の特徴の一つといえるだろう。

というと手工業的な印象を受けるかもしれないが、自社開発の自動生産ラインには多くの多軸型アームロボットが配備されており、熟練工と覇を競っている。

工場完成当時、周辺は雑木林と畑が主な田園地帯だったが、近年開発が進み様相は大きく変化した。現在、工場南東部にはテニスコートなども完備した寝屋川公園が隣接し、北西部には打上川治水緑地が拡がり、環境も良いため休日にはさまざまなイベントも開催され、市民の憩いの場として活用されている。

それではもう少し詳しく寝屋川市を紹介していこう。

名所旧跡

もともと御所の置かれた京都と商都大阪を結ぶ主要路線は淀川であり、徒歩や車馬の通行した京街道もあったが当時の寝屋川は守口、枚方(ひらかた)などが街道沿いの街であったのに対して、街道から外れていたため、それほど拓けはしなかったようである。また大阪から見ると寝屋川・枚方方面は方位学では鬼門の方角とされるため、近世における地域発展はなかったようである。

そういった中で昭和9年に建立された成田山不動尊の別院が寝屋川市内にある。

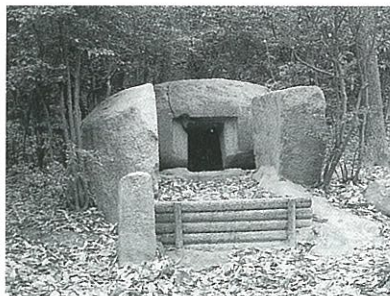
成田山といえば千葉県という印象が強いが、元々寛朝大僧正が、朱雀天皇より平将門の乱平定の密勅を受け、弘法大師が敬刻開眼された不動明王を奉持し、難波の津の港(現大阪府)より海路を東上して尾垂ヶ浜(千葉県匝瑺郡光町)に上陸、さらに陸路を成田の地に至り、乱平定の後に建立したのが成田山不動尊ということで、



成田山不動尊 大阪別院

元来は関西に縁の深い寺院である。そのような観点から、大僧正が出発した難波の津(大阪)の鬼門を護るために置かれたのが成田山不動尊別院であり、現在では地域のみならず関西全域から交通安全の祈禱所として有名になっている。ところで成田不動尊も時代の流れか、最近ではお守りにも工夫を凝らしており、キャラクターグッズをあしらったかわいいお守りも開発し、キャラクター収集家には宗教とは別に、有名な存在でもある。

さらに案外知られてはいないが、JR東寝屋川駅の南東には国の指定文化財に認定され古墳時代後期に築かれたとされる石宝殿(いしのほうでん)古墳があり、巨大な一枚岩を使用した石室などは、奈良明日香村の石舞台とともに、研究者の注目を集めている。



山の中にたたずむ石宝殿古墳の石櫛

また変わったところでは、工場北西部には平安時代に編集された「延喜式」にもその名が見え

る細屋(ほそや)神社がある。祭神は不明だが星や天が祀られており、農業豊饒の守り神とされている。細屋という名も元は星屋から転じたと言われている。この神社の境内の樹木や草を地元以外の者が刈り取ると腹痛を起こすと言われており、いかにこの神社を地元のお百姓さんが大切にしてきたかがよくわかる言い伝えである。



小さいが歴史のある細屋神社

工場周辺にはいわれのよく判らない神社がいくつああるのだが、隣接する交野(かたの)市には、天尊降臨の場所とも言われている磐船(いわふね)神社がある。生駒山系の端にあたる磐船神社は、「天の磐船」(宇宙船という説を唱える人もいる)で有名であり、生駒山はUFOの目撃が関西では多い地区。それだけにその昔、寝屋川周辺には宇宙人が到来していたなどというロマンをもって細屋神社や石宝殿古墳を見ると、単なる農村だった寝屋川とは異なった側面が見えてくるのである。

民話

ところで寝屋川は近世まで農村地帯であったためか、民話は多く存在する。当工場の位置する寝屋地区にも柵檀(せんだん)の巨木とその周辺で人をだます狸の物語が伝承されているが、比較的有名なのは「鉢かづき姫」(地域によっては鉢担ぎ姫)であろう。

「御伽草子」に収められているこの物語は、

室町時代のこと、河内国の寝屋に住んでいた長者の藤原実高の一人娘である初瀬姫が母親の死後継母にいじめられ、淀川に身投げをしたが死にきれず、通りかかった公家「山陰三位中将」の湯殿番として働いているうちに四男に見そめられ「嫁くらべ」の勝者となりハッピーエンドを迎えるという、波乱万丈物語である。今、鉢かづき姫は寝屋川市のマスコットキャラクターとして寝屋川市職員の名刺にも印刷されているほか、寝屋川市の文化と歴史の道の案内係やイベント時のマスコット、さらにはおみやげ品等々、街の顔として寝屋川市の文化と経済の発展に貢献している。



寝屋川市マスコットキャラクター
「はちかづきちゃん」

名産品

昔からの農村地帯を反映して、農作物が主要名産品である。古くは周辺都市の名を冠せられた守口大根や江戸時代からの湿地帯であったことから栽培されていた蓮根などが主要産品であったのだが、現在はサツマイモ(観光農園などもある)と大葉(青ジソ)が有名で、青ジソは関西地区の消費の大半を寝屋川産のものが占めているという。

駆け足で中西金属工業株式会社大阪工場周辺を紹介してきたが、じっくり歩いてみるとおもしろい場所であることがわかる。ただし周辺に

京都、奈良、大阪、神戸という都市が多いため、せっかくの好立地にありながらも印象が薄れてしまっているのかもしれない。日々の仕事に追われている身には単なる職場のある街であったのだが、散策することによって意外な歴史が再発見できる街である。

